

# 1人1台タブレット端末を活用し、自ら課題解決につながる資料を選択して分類・比較する学習

第1学年 | 中学生に必要な栄養素

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 既習内容や複数の資料を主体的に活用して、課題解決を図ることができました。
- 仲間の作った献立に対して、栄養バランスを考えてアドバイスすることができました。

## 大型提示装置とタブレット端末による効果

導入で前時との関連付け、対比できる資料を大型提示装置に示しながら本時の見通しをもたせる。

- ・ 前時の学習内容と本時の資料を提示し、本時の授業の流れについて児童の理解と関心を高める。
- ・ 個人追究の段階で、活用できる資料を紹介し、自己選択できるようにする。



### 教師の指導のポイント

- 生徒が主体的に資料を活用できるように、活用できる資料を提示して共有する。
- 学習内容の全体像が捉えられるように、端末上の資料を紙媒体としても板書に位置付ける。

## 協働学習支援ツールの活用による効果



生徒自らが、必要な栄養素量と自分の考えた献立の栄養素量を比べやすいように、あらかじめ数式を組んだNumbersを活用できるようにしておく。

- ・ 前時の学習した資料と本時活用できる資料を準備し、活用できるようにしておく。
- ・ 自分が設定した献立で使用する材料の量から、得られる栄養素量を計算して、必要な栄養素量と比較できるように数式を組んでおく。

課題に対して考えたことを、グループ追究の場で仲間に対して話すことで、授業内容の理解と言語能力の向上に役立つと考えられる。



協働学習支援ツールを用いて、作成した自分の献立の数値を示しながら提示し、説明する。

- ・ 作成した献立について工夫した点を根拠を明確にして仲間に説明する。
- ・ 仲間の考えた献立に対して、栄養素量と比較しながら、よりよい献立になるように使用する材料の種類や量についてアドバイスをする。

### 教師の指導のポイント

- 資料をタブレット端末で分類・比較して、栄養素量だけでなく、摂取のしやすさや旬の食材をしようして献立を作成している児童の姿の画面を共有し、「〇〇さんは何に注目していますか？」などと、働かせている見方・考え方を広げる発問をする。